

今月の特集関連本 ⑥

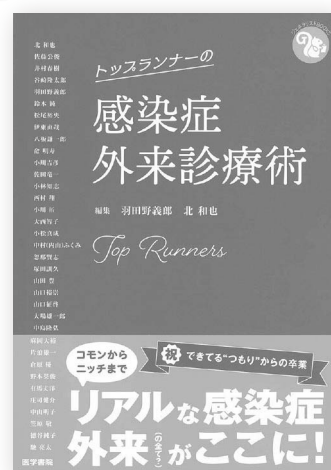


誰も教えてくれなかった「風邪」の診かた 感染症診療 12の戦略 第2版

岸田直樹＝著

本体 3,500 円＋税／A5 判・336 頁／医学書院／2019

「だれかぜ」「誰風邪」の愛称で親しまれる大ベストセラー書が昨年、7年ぶりに大改訂された。初版で圧倒的な支持を得た、プライマリ・ケア現場における「風邪と重篤な疾患との見極め方」に磨きをかけたのみならず、高齢者の風邪診療や薬剤耐性菌など診療現場を悩ませる重要課題にも明快に処方箋を示した。プライマリ・ケアの足元で感染症診療の定説が揺らいでいる今、日々の「風邪」診療における 12 の戦略が明日の医療を変える！



《ジェネラリスト BOOKS》

トッランナーの感染症外来診療術

羽田野義郎、北 和也＝編

本体 4,200 円＋税／A5 判・356 頁／医学書院／2019

外来で遭遇する感染症への基本的な対応からワンランク上の対応までをまとめるもの。この領域のトッランナーたちが、診療の基本からよりアドバンスなテクニックまでを自身の診療や過去の経験などを踏まえながら解説。著者の失敗談やそこから学んだことなどについても紹介しており、「本書を読めば外来で診る感染症診療の質が上がる！」と言っても過言ではない充実の内容。



感染症外来の帰還

岩田健太郎、豊浦麻記子＝著

本体 4,700 円＋税／A5 判・488 頁／医学書院／2010

研修医世代から好評を博した『感染症外来の事件簿』をもとに、日本のプライマリ・ケアで外来診療を支えるベテラン臨床医向けに新たに生まれ変わった論考が本書。卒前教育で感染症を学ぶ機会がなかった世代に向け、世界的かつ日本的でありうる臨床感染症学の“中庸”を投げかける。熱・咳・咽頭痛・頭痛と首の痛み・下痢と腹痛・関節痛など、新型インフルエンザ疑いに役立つ基本的要素が盛り込まれた 1 冊。